

2-6 里山林健全化事業

事業目的

昔から人間が循環利用することによって維持してきた広葉樹林、いわゆる「里山林」をナラ枯れ被害から保全するため、資源の循環利用や被害木の駆除を支援します。また、三陸沿岸などの景勝地の松林において、松くい虫被害木のくん蒸処理材等が景観を損ねている状況が見られることから、これら被害材の有効活用を支援することで修景整備を図ります。

事業効果

CO ₂ 年削減効果	606 t-CO ₂
-----------------------	-----------------------

ナラ枯れ駆除量	1,600m ³
---------	---------------------

事業内容

平成28年度事業費 40,650千円

● 広葉樹林伐採・搬出支援

昔から薪炭材やきのこ原木、チップ材などを生産する場として人間が循環利用することによって維持してきた里山林を保全するため、広葉樹林の若返りを促進してナラ枯れ被害の予防を図ります。

事業量:5,000m³ 事業費:5,000千円 補助額:1,000円/m³ 実施主体:市町村・森林組合・林業事業者等

● ナラ枯れ被害木の駆除

ナラ枯れ被害木の駆除を図るため、必要な経費助成を行い、被害の拡大防止、被害量の軽減を進めます。

事業量:1,600m³ 事業費:22,200千円 補助額:定額(標準単価以内)もしくは1/2以内 実施主体:市町村

● 里山林環境整備

くん蒸処理されて林内に集積されている松くい虫被害材等を搬出処理してバイオマス燃料等に活用(被害材活用)するとともに、被害跡地に松くい虫抵抗性のあるマツを植栽(松林再生)するため、必要な経費助成を行います

事業量:(被害材活用)400m³, (松林再生)600本 事業費:(被害材活用)12,000千円, (松林再生)1,200千円
補助額:定額(標準単価以内) 実施主体:市町村

現 状



ナラ枯れ被害の深刻化



被害材による景観の悪化

税導入後のイメージ



健全な里山林の維持保全



景勝地の修景整備